

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 豊島区立池袋第一小 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
332	279	17	8

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策					
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価 概要	学校関係者 評価の意見		標 語				
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1		
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、 中学校)と連携を図ろうとしている。							32	87	14	2	43	2	2	0	0	0	7	10	0	0	池袋中ブロックとしての三校の取組を保 護者にもお知らせしてきたが、さらに具 体的な連携を期待されている。	○保幼の連携がとても充実してい ると感じている。さらに小学生が 幼児や園児とふれあえる場をつ くっていきたい。	A	池袋中ブロックでは、授業改善や環境教育などの具体的な連 携を充実させていく。近隣の保育園幼稚園とは、施設利用や 1年生の授業参観、など無理なくできる新たな取り組みを増 やしていく。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分 かりやすい授業を行っている。	児 童 ・ 生 徒 を 対 象 と し た ア ン ケ ー ト 集 計 表 を ご 参 照 く だ さ い。	55	108	9	0	6	1	3	0	0	0	4	13	0	0	授業については、保護者、児童ともに9 割以上の肯定的な評価である。すべての 子供がわかる、できるを目指す授業づく りを目指し、授業改善を行ってきた。タ ブレット端末の活用については、保護 者、教職員共にさらなる充実を図りたい と考えている。	○体験的に学んだり教科担任で複 数の教師が授業を行ったりするこ とで新しい扉が開かれている。 ☆社会に出てからはコミュニケー ション能力がとても必要だと感じ ている。小学生からコミュニケー ションの指導を大切にできるとよい。	B	校内研究で行ったユニバーサルデザインの視点を取り入れた 授業改善をもとにして、さらに、児童自身が学びの主体は自 分であると意識し、学びを生かす喜びと自信がもてるように していく。その際、デジタル教科書や一人1台端末の効果的 な活用の仕方をICT支援員を活用したり、池袋中ブロックと ともに研修をしたりしながら行う。					
		II－2	学校は、I C T機器やタブレット端末等の活用に より、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの 意欲の向上に取り組んでいる。		56	90	16	3	13	0	3	0	0	1	5	11	1	0									
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づく りを推進している。		52	105	9	0	12	1	1	0	0	0	3	14	0	0	項目4、項目5ともに、85%をこえる 評価で、昨年よりも微増している。本項 の特色でもある縦割り班の活動が、現在 の校舎で2年目となり充実してきてい る。縦割り班でのあいさつ運動も学期ご とに行い、保護者からも高評価だった。	○地域においても元気なあいさつ ができる児童が多く、本校のよさ の一つだと感じている。	A	引き続き、地域や保護者とともに、全校で「笑顔の花プロ ジェクト」に取り組む。また、植物や生き物を通じた教育活 動を積極的に行い、生命を大切にする心情的土台作りを行っ ていく。また、児童が主体となり、さらに笑顔とあいさつが 増えていくよう、取組を工夫していく。					
		III－2	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優し い心を育てている。		49	103	11	0	15	3	1	0	0	0	3	13	1	0									
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極 的に取り組んでいる。		51	98	8	0	21	1	3	0	0	0	4	13	0	0	取組が伝えやすく、今年度も高評価だ った。特に、給食に関する項目は、ほぼ1 00%に近い肯定的な評価だった。児童 のアンケートでは、栄養のバランスを考 えているの回答が昨年度同様、やや少な かった。	特になし	B	体育の時間や長縄集会、持久走週間、体育館遊びでのボー ル遊びなど、誰もが運動を楽しめる活動を工夫していく。発達 段階に応じた食育を計画的に行い、児童自身が栄養のバラ ンスを考えて食事をする素地をつくっていく。					
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に 取り組んでいる。		119	58	1	0	0	3	1	0	0	0	13	4	0	0									
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早 期対応）に学校全体で組織的に対応している。		39	92	9	4	34	1	2	0	0	1	8	9	0	0	教職員は、意識的に取り組んでいるこ と、チームで取り組んでいることから評 価が高いが、保護者アンケートでは、分 からないの回答が引き続き多い。個々の ケースへの対応が中心になることから、 取組を伝えにくく、手立てを工夫してい く必要がある。	○学級は小さな社会。特別支援学 級の児童との交流で、多様な友達 との関わり方を体験的に学べてい ることがよい。 ○特別支援教室の施設や教材が見 られてとてもよかった。このよう な機会を引き続き設けていくと良い。	A	豊島区の「心の健康アンケート」や本校独自の学校生活アン ケート、アンケート後の全員面接などを定期的に実施するな ど、いじめの未然防止に取り組んでいること、また、事案が あった場合に、学校いじめ防止対策委員会で組織的に対応 していることなど、学校の取組を年度初めの保護者会で伝え ていく。また、引き続き学校公開の時に、特別支援教室の施設 や教材を見学できる場を設定し、理解啓発を図る。					
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一 人一人に寄り添いながら、指導を行っている。		45	89	15	2	27	2	0	0	0	2	8	9	0	0									
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一 人一人に適切な指導を行っている。		45	88	4	1	40	3	0	0	0	1	10	7	0	0									
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生 活を送っている。		47	109	9	0	13	2	2	0	0	0	2	14	1	0	保護者、児童ともに、落ち着いて過 ぎせしていると88%の回答だった。また、4 月の事件以後、様々な場面で保護者の意 見を受け止めながら、信頼回復に努めて きた。さらに改善をしていく。	特になし	B	学校評価や行事、土曜公開の際の保護者アンケートなど、保 護者からの声を真摯に受け止め、組織的に検討し、取り組め ることについては、学校便り等でお知らせをしていく。					
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止 め、学校改善に生かしている。		36	105	13	3	21	2	2	0	0	0	4	13	0	0									
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりや ホームページ、学校公開等によって、分かりやす く伝えている。		63	101	10	1	2	3	0	0	0	1	4	9	4	0	「分かりやすく伝えている」の項目は、 できていないポイントが、昨年の1 2.6%から6%に改善した。保護者向 けのお知らせが、紙面、クラスルーム、 安全安心メールと複数あるのでわかりに くいと指摘があった。協力をいただくた めにも改善をしていく必要がある。	○池一小の保護者は学校への関心 が大変高いと感じている。これか らも協働していけるとよい。 ○子供にとって知っている大人が 身近にいることが大切。今後も地 域で見守っていききたい。	A	引き続き、学校生活の様子を積極的にホームページで 配信していく。また、保護者宛のお知らせについ ては、紙面で配布するものを精選し、としま保護者連絡 ツールを積極的に活用していく。					
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育 している。		47	103	13	0	15	3	1	0	0	0	5	12	0	0									
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、「森の中の学校」や「ISS」への取り組み に関する教育を推進している。		59	90	6	0	23	3	1	0	0	0	7	9	1	0	「森の中の学校」の取組に保護者の方 にも参加してもらったりしたことで活動 の様子が伝わり、昨年度よりわからない のポイントが減少した。	○マイフラワー運動が軌道に乗り 充実している。卒業式、入学式な ど、育てた花を飾っていけるとよい。 ○育てた花を飾っていけるとよい。	A	「森の中の学校」や開校90周年の取組を、保護者や地域の 方々で行い、人となつながらよさに気付かせ、地域を愛する心 を育成していく。コミュニティスクールの取組も始まるの で、さらに「つながり、見守り、共に育てる」意識を高めて いく。					
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学 校」を意識した業務分担等により、組織的に業務 の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。												3	13	1	0	校務支援システムの活用や会議の精選を してきた。学校評価では、学年主任が参 加する会議が多く、教材研究や学級の業 務を行う時間が十分でないとの声もあ った。	特になし	B	校務支援システムを活用し、集合での打合せを最小限 にしていく。学年主任が参加する会議を精選するとと もに、会議を設定しない曜日を設ける。					

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある